

令和4年度「瀬戸内海的环境保全・創造に係る助成研究」募集要領

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議

1. 研究助成の趣旨

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（以下、「研究会議」という。）では、平成23年度から瀬戸内海環境保全知事・市長会議の委託を受けて、「瀬戸内海的环境保全・創造に係る研究」を実施してきた。

平成23年度～平成25年度は「瀬戸内海を豊かな里海とするための栄養塩・物質循環に関する研究Ⅰ」として二つの小課題を、平成26年度～平成28年度は「瀬戸内海を豊かな里海とするための栄養塩・物質循環に関する研究Ⅱ」として3つの小課題を、平成29年度～平成30年度には「栄養塩濃度の管理によるCODへの影響に関する研究」として2つの小課題を設定し、研究に取り組んできた。さらに令和元年度～令和3年度には「瀬戸内海の内海栄養塩濃度低下の原因究明と将来予測に関する研究」として2小課題を行うとともに、令和元年度～令和2年度は「栄養塩類の働きを踏まえた高次生態系までの統合シミュレーションモデル構築のための課題整理」を行い、令和3年度にはそれに続いて「栄養塩類から高次生態系を含む統合シミュレーションモデルの構築」の研究を実施した。

今回、これらの成果を発展させる形で、別紙「瀬戸内海的环境保全・創造に係る助成研究公募テーマ」について研究助成を行う。

2. 研究のテーマ及び目的

テーマⅠ 『瀬戸内海の栄養塩類濃度低下がもたらす低次生態系の変化に関する研究』

瀬戸内海の栄養塩類濃度は、沿岸部と沖合部で異なり経年変化傾向も違うことが判明するとともに、栄養塩類濃度と海洋の基礎生産量の指標となる植物プランクトン量(Chla濃度)の間には単純な応答関係は認められず、栄養塩類濃度の減少がそのままChla濃度に連動しているわけではないことが示された。そのため、将来の高次生態系までを含む統合モデルを構築に向けて、低次生態系の栄養塩類と植物プランクトンの関連性について詳細に研究する。

テーマⅡ 『瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究』

瀬戸内海に流入した海洋プラスチックごみの起源と分布を明らかにするためには、数値モデルによるシミュレーションは有力な方法である。しかし、より精度の高いシミュレーションを行うためには、河川等を通して流入するプラスチックごみの負荷量などの基礎データを整備することが求められる。そこで、瀬戸内海における海洋プラスチックごみに関わる知見を取りまとめ、実態調査結果と合わせて現在の流入負荷量を評価し、瀬戸内海におけるプラスチックごみの分布を明らかにするとともに、今後の海洋プラスチックごみ対策に向けた提言をする。

3. 応募資格

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議の会員（個人・団体）とする。（公募申込と同時の入会受付も可能です。）

なお、共同研究の場合においては、会員を代表研究者とする。

4. 選考方法

- (1) 応募された研究助成申請書は、「研究会議」の選考委員会において予備審査を行い、正・副理事長会議で本審査を行った上で採否を決定する。
- (2) 選考結果は、令和4年6月下旬（予定）に決定後、応募者に通知する。

5. 研究の実施期間及び報告書

研究の実施期間は、令和4年7月から令和7年3月までの継続研究とし、各年度において研究成果報告書を作成し、令和4年度、5年度は3月までに中間報告を、令和6年度は令和7年3月までに最終報告を提出するものとする。

なお、「研究会議」は、採択された研究者に対して、研究内容が設定されたテーマに整合して行われるよう、研究状況の報告を求めるとともに、助言を行うこととする。

また、「研究会議」は、令和6年度において、研究成果全体をとりまとめ、行政施策への提言を作成するため、採択された研究者は、この提言作成作業に協力するものとする。

6. 研究助成額

研究助成金の額は、原則として1件当たり、令和4～6年度の各年度150万円を限度とし、応募された申請書を審査のうえ決定する。

なお、助成対象研究は各テーマについて1～2題とし、全体額は予算見込み額の範囲内とする。（別紙「研究助成金費目一覧表」に示す、研究に直接必要な費用が助成対象です。）

7. 応募の要領

(1) 応募方法

応募者は、所定の研究助成申請書（別紙様式）に必要事項を記入の上、瀬戸内海研究会議事務局まで電子メールで提出する。

(2) 応募受付期間

令和4年5月23日（月）～令和4年6月17日（金）（必着）

8. その他

研究助成の決定通知後、研究内容及び経費の変更は原則として認められないが、やむを得ず変更する場合は、事務局と事前に協議するものとする。

9. 申込み・問合せ先

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議事務局 担当：樋口

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター東館5階（公社）瀬戸内海環境保全協会内

TEL 078-241-7720 FAX 078-241-7730 E-mail : higuchi@emecs.or.jp

(別紙)

〔瀬戸内海の環境保全・創造に係る助成研究公募テーマ〕

「研究会議」では、瀬戸内海環境保全知事・市長会議からの要請を受け、令和4年度から3か年計画で、瀬戸内海の保全・再生に必要な時宜に適ったテーマについて調査研究を行い、行政施策としての活用に向けて行くこととしています。

＜3か年計画＞ 令和4～6年度：助成研究の公募と調査研究の実施
令和6年度：調査研究の実施と調査研究結果を含めた成果及び提言のとりまとめ

＜推進体制＞ 総括：駒井 幸雄（瀬戸内海研究会議企画委員長）
テーマⅠ担当：西川 哲也（瀬戸内海研究会議企画委員）
テーマⅡ担当：磯辺 篤彦（瀬戸内海研究会議企画委員）

テーマⅠ 『瀬戸内海の栄養塩類濃度低下がもたらす低次生態系の変化に関する研究』 (テーマⅠの背景及び内容)

① 現状と課題

瀬戸内海の栄養塩類濃度は、沿岸部と沖合部で異なり経年変化傾向も違うことが判明するとともに、栄養塩類濃度と海洋の基礎生産量の指標となる植物プランクトン量（Ch1a濃度）の間には単純な応答関係は認められず、栄養塩類濃度の減少がそのままCh1a濃度に連動しているわけではないことが示された。

このことは、瀬戸内海の栄養塩類濃度の低下に伴って低次生態系に何らかの変化が生じており、それが魚類等を含む高次生態系に影響している可能性を示唆するものである。つまり、栄養塩類の変動と高次生態系の応答を明らかにするためには、まず低次生態系の栄養塩類と植物プランクトンの関連性について、詳細に研究する必要がある、将来の高次生態系までを含む統合モデルを構築するために必要不可欠な研究課題である。

② 内容

瀬戸内海の栄養塩類濃度低下が低次生態系にどのような変化をもたらしているかを明らかにする研究を公募する。なお、本研究では、栄養塩類濃度と植物プランクトンに関わる既往の知見の取りまとめを含むこととする

テーマⅡ 『瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究』 (テーマⅡ背景及び内容)

① 現状と課題

瀬戸内海に流入した海洋プラスチックごみの起源と分布を明らかにするためには、数値モデルによるシミュレーションは有力な方法である。しかし、より精度の高いシミュレーションを行うためには、河川等を通して流入するプラスチックごみの負荷量などの基礎データを整備することが求められる。

② 内容

瀬戸内海における海洋プラスチックごみに関わる知見を取りまとめ、実態調査結果と合わせて現在の流入負荷量を評価し、瀬戸内海におけるプラスチックごみの分布を明らかにするとともに、今後の海洋プラスチックごみ対策に向けた提言をする研究を公募する。

研究助成金費目一覧表

費目区分	経費の内容
①謝金・賃金	研究者以外の外部協力者からの助言、協力に対する謝金 非常勤スタッフ、アルバイトへの賃金等
②旅費	調査、会議出席に伴う交通費、宿泊費、雑費 研究のための交通費、宿泊費、雑費
③物品・資材購入費	機材、資材等の購入費（パソコンその他の備品は除く。）
④役務費	会議室使用料 翻訳料 機器等のレンタル料 郵便料金
⑤資料・印刷経費	研究のための書籍、論文等の購入費 研究のための調査票、集計表の印刷費
⑥消耗品費	文具用品、試薬、試料、実験のための部品等 資料等のコピー代
⑦雑諸経費	その他の経費

(備考) 研究に直接必要な経費が対象です。
(管理費、学会参加費等は対象外です。)